

【石狩管内】 読書活動につながる図書館（恵庭市立柏陽中学校）



【「みんなのおすすめ本」のコーナー】

本と出会う機会の工夫

図書委員会は司書教諭の指導を受けて、貸出業務や朝読書の呼びかけを行うほか、図書ボランティア・学校司書と協働して「全校生徒がＴシャツ形の台紙に本の紹介文を書き、廊下に展示する」企画を行っています。また、教職員のおすすめ図書紹介コーナーを設置するなど、柏陽中学校のあらゆる場所に、生徒が本を身近に感じる工夫があります。多読賞（貸出冊数が多い生徒）や記録賞（読書リストの記録冊数が多い生徒）の表彰を行い、生徒が数多くの本と出会い、読書への意欲を高める工夫を推進しています。

読書活動の充実を目指した学校司書の活躍

学校司書の松下さんが、「道みんの日」や職業学習など、季節や学校行事に合ったテーマでの選書を心がけ、表紙が見えるように特別展示を行うなど、生徒が興味をもち、本を手に取りやすい工夫をしています。松下司書は、「中学校３年間で手に取った本の中で、一文でも心に残るものがあれば。」と、選書や展示を進めるほか、朝読書の時間に各教室で新刊の紹介やブックトークを行うなど、活躍しています。



【「いつか働く日のために」と題した展示コーナー】

【十勝管内】「図書館」の力で充実する「児童生徒の学び」（幕別町・鹿追町）

図書館は「本を介した交流の場」～幕別町～

幕別町図書館では、町内の小中学校にSDGs等の授業の単元に沿った資料の貸出しを行っています。また、図書館内には、中札内高等養護学校幕別分校の生徒が工夫を凝らした、おすすめ絵本の展示コーナーを設置しています。幅広い層が利用する人気コーナーとなっており、生徒たちが選んだ絵本を地域住民が借りる「本を介した交流の場」として、生徒と社会（地域住民）がつながる機会となっています。生徒が製作した図書館紹介の動画をホームページやAR（拡張現実）を利用してPRする等、ICTを活用した取組も行っています。

授業は「図書館の先生」と一緒に～鹿追町～

鹿追町図書館では、小学１・２年生の児童を対象に、図書館で年に１～２回授業を実施しています。授業は、事前に教員と図書館職員が打合せを行い、普段は読み聞かせ事業のため学校を巡回している図書館職員も、「図書館の先生」として、児童の質問に答えるなどのサポートにあたります。動物が出てくる物語を探してタイトルと作者名を書き留める活動や、公共施設の一つとして訪問した図書館について掲示物にまとめる活動等が行われています。この取組により、来館したことのなかった児童が、図書館や図書館職員を身近に感じることができ、図書館や読書に親しむきっかけとなりました。



掲示物に使用する写真は、タブレットを使って子どもたちが撮影。作品は参観日に発表しました。